

2022年8月21日～8月27日 各家庭でのディボーション用テキスト

さて、私が夢で見ていると、二人があまり遠くも行かないうちに、川と道とは暫く分かれた。彼らも少なからず残念に思ったが、敢えて道からはずれようとはしなかった。今や川からの道は悪く、足は旅のために痛んだ。こうして巡礼者たちはその道に堪えがたくなった。【民21:4】それでなおも進んで行きながら、もっとよい道を望んだ。さて、少し前方に、道路の左手に当たって一つの草原と、それを踏み越えて入る木戸とがあった。その草原は脇道が原と呼ばれている。そのとき、基督者は仲間に行った、もしこの草原が私たちの行く道に沿ってあるなら、それを踏み越えて中に入ろうではありませんか。それから彼は木戸の所へ行ってみると、見よ、一つの小道が道に沿って、柵の向こう側に通っていた。基督者は言った、これはお誂え向きです。ここに一番楽な道があります。さあ、有望者さん、参りましょう。

有望者 ですが、もしこの小道を行って本道からそれたらどうしましょう。

相手の基督者は言った、そんなことはないでしょう。ご覧なさい、道に沿っているではありませんか。こうして有望者は仲間に説きつけられて、その後について木戸を越えた。彼らが乗り越えて小道の中に入ると、そこは非常に歩きやすかった。同時に前方を見ると一人の人が彼らと同じように歩いて行くのを見つけた。(その名は空頼み者と言った)そこで彼に呼びかけてその道はどこに通じているかと聞いた。天の門へ、と彼は言った。基督者は言った、ご覧なさい、私もそう言ったではありませんか。これで私たちが間違っていないことが分かりましょう。こうして彼は先に立ち、二人は後について行った。ところが見よ、夜になって非常に暗くなったので、後から行った二人は先に行く者の姿を見失ってしまった。

それで先に行った者(名は空頼み者)は前の道が見えないので、深い穴に落ち込んだ。【イザ9:16】これはこの土地の領主が虚栄心の強いばか者を捕えるためにわざとそこに造ったもので、彼は落ちると共に粉碎されてしまった。

さて基督者と仲間は彼が落ちるのを聞いて、何事だろうと呼んでみたが、だれも答える者はなく、ただうめき声が聞こえるだけであった。そのとき、有望者が言った、今私たちはどこにいます。すると彼の仲間は黙っていた、自分が相手を本道から連れ出したのではないかと思ったからである。折しも雨が降り出し、すさまじく雷鳴し稲妻が光ってきて、水かさも急に増してきた。

そのとき、有望者は心の中にうめいて言った。ああ、自分の道が続けて行けばよかったのに。

基督者 この小道が私たちを本道から連れ出そうなどとだれが思い設けましょう。

有望者 私は最初から心配して、それであのようにおだやかな注意をしたのです。

あなたが年長者でなかったら、もっとあからさまに言いたかったのですが。

基督者 君、まあ気を悪くしないで下さい。悪気があったわけではありません。

有望者 兄弟よ、気を取り直して下さい、許しますから。そしてまたこんな事も私たちに役立つと信じて下さい。

基督者 慈悲深い兄弟を持ってうれしいことです。ところで、このように立ってはいけません。もう一度引き返してみましよう。

有望者 ですが、兄弟、私を先に行かせて下さい。

基督者 いや、どうか私を先に行かせて下さい。もし何か危険があったら、私が先に陥るように。私のために二人とも本道はずれたのですからね。

有望者は言った、いや、あなたを先にはやらせません。気がむしゃくしゃしているために、また本道からはずれるかもしれませぬ。その時、彼らを励ますために、ある人の声、がこのように言うのを聞いた、「大路に、あなたの通って行った道に心を留めよ、帰れ」。**【エレ 31:21】**しかしこのときには水かさが非常に増したので、帰り道は甚だ危険であった。(そのとき、私が思ったことは、道からはずれている時に道に入るよりも、道に入っている時外に出る方がやさしいということであった。)それでも二人は敢えて引き返そうとしたが、非常に暗く、ひどい大水となったので、引き返すとき九度も十度もおぼれかけた。

二人はまたその熟練にもかかわらず、その夜は木戸へ帰ることはできなかった。ついに小さな小屋に休んで、夜明けまでそこに腰を下ろしていたが、疲れていたのので寝込んでしまった。さて、彼らが横になっていた所からほど遠からぬところに懷疑城と呼ぶ城があって、その所有者は巨人絶望者であった。今しも二人が眠っていたのは彼の領土であった。それで彼は朝早く起きて自分の野をあちこち歩いていると、基督者と有望者とが自分の土地で眠っているのを見つけた。そこできびしい邪険な声で起きろと命じて、どこから来たのか、またおれの領土で何をするのかと尋ねた。二人は自分たちが巡礼者で、道に迷ったのだと答えた。すると巨人が言った、お前たちは今夜おれの領土に踏み込んで寝て、じゃまをしたのだから、おれと同行せねばならぬ。そこで二人は止むなく行くことになった、彼の方が強かったからである。彼らは自分たちが間違っていると知っていたので、ほとんど言い開きはできなかった。それで巨人は二人を追い立てて城の中の、むかつくような悪臭のするひどく暗い土牢に入れた。ここで水曜日の朝から土曜日の夜まで、二人は横になっていたが、一片のパンも、一滴の飲み物も、ともし火もなく、安否を尋ねる者もなかった。ここでこのみじめな身の上になって、友人や知人からも遠く離れていた。**【詩 88:18】**さて、基督者はこの場所で二重の悲しみを味わった、二人がこのような苦難に陥ったのは自分の無分別な軽率のためだったからである。

さて、巨人絶望者には妻があって、その名を不信女と言った。彼が寝についたとき、自分のしたことを妻に語った、つまり、自分の領土に侵入したかどで、二人の囚人を土牢に入れたということである。

【ジョン・バニヤン 天路歷程 正篇 より】

※この本は図書に置かれています。さらに読みたい方はどうぞご利用下さい